

第 20 回日本生殖看護学会学術集会

WEB 開催

日時 LIVE 配信：9月4日(日)

オンデマンド配信：9月4日(日)～25日(日)

テーマ SDGs の視点から性と生殖の健康支援を再考する

プログラム 会長講演「看護実践のその先へ」西岡有可(ファミワン、不妊症看護認定看護師)／教育公演「生殖看護は SDGs か」村上芽(日本総合研究所創発戦略センターシニアスペシャリスト)／特別講演「不妊治療の保険適用化の動向と現状」原澤朋史(厚生労働省保健局医療課医療技術評価推進室長補佐)／シンポジウム 1「不妊と SDGs —すべての人の性と生殖の健康を目指して」大須賀穰(東京大学医学系研究科産婦人科講座教授)、宮路拓馬(自由民主党衆議院議員、内閣府政務官)、横井ナナ(ジョイセフパートナーシップグループ長)／田村有樹子(サイバーエージェント人事部)／2「不妊治療は保険適用でどう変わったか」杉山力一(杉山産婦人科理事長)、村上貴美子(蔵本ウィメンズクリニック副院長、不妊症看護認定看護師)、東尾理子(妊活研究会主宰)／不妊症看護認定看護師特別企画「一般婦人科における CN 看護相談」白田浩美(茅場町伊藤病院)／「地域での CN 実践報告」大嶺幸幸(友愛医療センター)

参加費 [事前登録] 会員 5000 円、非会員 6000 円、学生(大学院生、研修生は除く)2000 円

入金締切 9月10日(土)

参加登録方法 下記 Web サイトの参加登録フォームより

HP <https://academic-meeting.com/jsfn20th/>

問い合わせ先 [学術集会事務局]

株式会社ファミワン

〒107-0062 東京都港区南青山 7-3-6 南青山 HY ビル 7F 荒井財団

✉ jsfn20th@academic-meeting.com

第 63 回日本母性衛生学会総会・学術集会

ハイブリッド開催

日時 現地会場：9月9日(金)～10日(土)

一部オンデマンド配信：～10月30日(日)

会場 神戸国際会議場(神戸市中央区)

テーマ みんなで語ろう — 女性・子ども・家族の健康と SDGs

プログラム 会長講演「Action Research の連続 昭和から令和の周産期医療での教育・研究・実践」遠藤俊子(関西国際大学)／理事長講演「FHRM 所見と新生児予後の乖離例を考察する」正岡直樹(日本母性衛生学会)／特別講演 1「大学教育の転換—コロナ禍を経て新たな可能性と挑戦」濱名篤(関西国際大学)／2「昭和から平成、令和の周産期医療と今後への期待」池ノ上克(宮崎市郡医師会病院)／3「不確実な時代の助産」Franka Cadée's(ICM 国際助産師連盟)／4「21 世紀国富論／医療と公益」原文人(内閣府参与)／5「健康と SDGs —パンデミックの時代に母と子の〈いのち〉を守る意味」本田徹(NGO シェア = 国際保健協力市民の会)／教育講演 1「多胎の妊娠期管理」船越徹(兵庫県立こども病院総合周産期母子医療センター)／2「“子ども学のすすめ” —子どもの貧困を考える」稲垣由子(明石こどもセンター)／3「日本における妊婦新型コロナウイルス感染の現状」出口雅士(神戸大学)／4「口腔からの妊産婦の健康」高田隆(周南公立大)／5「心が通う妊婦健診とするために」松田義雄(東京医療保健大学)／6「女性の健康向上を阻む社会的圧力—ビル承認秘話からわが国の SRHR の今を考える」北村邦夫(日本家族計画協会)／7「産科診療ガイドライン 2020 を踏まえた産科救急」最上晴太(京都大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター)／8「母子の健康からみた HPV ワクチンの重要性」川名敬(日本大学)／9「課題を抱える妊産婦支援の実践と今後の取り組み」永原郁子(マナ助産院)／10「SDGs 目標 3・5・8 を達成するために必要な看護の力」福井トシ子(日本看護協会)／11「生殖医療の過去・現在・未来」森本義晴(HORAC グランフロント大阪クリニック)／12「看護職による周産期メンタルヘルスケア update」新井陽子(北里大学)／13「よりよい子育てを見据えた産科医療をめざして」山崎峰夫(純心会パルモア病院)／14「実践 産科超音波検査」馬場一憲(埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター)／シンポジウム 1「災害と周産期医療」山本あい子(四天王寺大学)、芳本誠司(兵庫県立こども病院総合周産期母子医療セ

ンター), 宮川祐三子(大阪府立病院機構大阪母子医療センター), 田中宏幸(兵庫医科大学) / 2「With コロナ期の母子の健康を守る」菅沼信彦(名古屋学芸大学), 高橋弘枝(大阪府看護協会), 山崎初美(神戸市健康局保健企画), 吉岡信也(神戸市立医療センター中央市民病院) / 3「助産師としての活躍の場はどこまで広がるか」星野優子(日本医療政策機構), 岡本登美子(ウバウバハウス岡本助産院), シオリヌス(大貫詩織)(助産師, YouTuber) / 4「母と子の地域包括支援システムと助産師」井本寛子(日本看護協会), 岸畑聖月(株式会社 With Midwife), 白土なほ子(昭和大学), 石川紀子(総合母子保健センター愛育病院) / 交流集会 / ほか

後期参加登録期限 10月30日(日)12:00まで(オンデマンド配信期間含む)

参加費 [後期参加登録] 会員1万3000円, 非会員1万6000円

参加登録方法 下記 Web サイトの登録フォームより
HP <https://site.convention.co.jp/jsmh63/registration/>

問い合わせ先 [運営事務局]

日本コンベンションサービス株式会社神戸支社
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1 神戸国際交流会館 6 階

☎ 078-303-1101(平日 9:30~17:30)

HP <https://site.convention.co.jp/jsmh63/>

佳子(国立病院機構嬉野医療センター, がん化学療法認定看護師, 助産師) / 教育講演「出産体験の振り返りのアセスメントから意味づけの支援まで—母性看護外来の実践から」常盤洋子(新潟県立看護大学教授) / 「臨床推論」(CLOCMiP: 2022 年必須研修) 齋藤益子(関西国際大学教授) / 「医療安全と助産記録」(CLOCMiP: 2022 年必須研修) 岩崎和代(東都文京病院看護副部長, 助産師長) / ほか

※このほか, CLOCMiP 選択研修が多数受講可能。

詳細は下記 Web サイト参照。

参加登録 下記 Web サイトの参加登録フォームより

HP <https://jsmdp.jimdo.com/>

参加費

[7月31日まで] 会員6000円, 非会員7000円, 学生2000円

[8月31日まで] 会員7000円, 非会員8000円, 学生2000円

※学生は, 助産師資格取得課程以外の大学院生は除く。

問い合わせ先 [運営事務局]

宮崎県立看護大学別科助産専攻 福永美紀, 山本真海

〒880-0929 宮崎県宮崎市まなび野 3-5-1

✉ 5th.jsdpm@gmail.com

☎ 0985-59-7723

第5回日本助産診断実践学会学術集会

ハイブリッド開催

日時 現地会場: 9月24日(土)

オンデマンド配信: 10月3日(月)~31日(月)

会場 KITEN ビル 8 階コンベンションホール(宮崎市)

テーマ 妊娠期から育児期までの継続した助産ケアを考える

プログラム 大会長講演「育児期の月経前症候群のある母親の助産ケア」濱寄真由美(宮崎県立看護大学教授) / 特別講演「女性の東洋医学的な治療」山口昌俊(宮崎大学医学部特別教授) / 特別講演「ポジティブな出産体験のための分娩期のケア」笹川恵美(東京大学大学院助教) / 教育講演「女性とがん—乳がん患者のアピアランスケア」井手千